所蔵品紹介｜ファミリーDAY｜作品はどこへ？

【つきなみ講座】

休館中もつきなみ講座は開催いたします！ただし、会場は福岡市美術館ではありませんのでご注意ください。事前申込不要、参加無料です。受付は開始時刻の30分前からです。

10月28日（土）15:00〜16:00
現代美術の輸送と保存大作戦！
現在、福岡アジア美術館にて展示中のアニッシュ・カプーア《虚ろなる母》の輸送を含め、現代美術の保存について現状と課題についてお話いたします。
渡抜由季（当館学芸員）
場所：福岡アジア美術館 あじびホール
定員：50名

11月25日（土）15:00〜16:00
ヨーロッパ更紗を着る アジアそしてアフリカへ
大航海時代以来、貿易品として世界中を魅了し続けてきたインド更紗。19世紀になって、産業革命を背景に、ヨーロッパ産の更紗がインド更紗にとって代わって爆発的に広がります。その時日本人は、ヨーロッパの更紗をどう受け止めたのでしょうか。ほかの国々では？更紗を通して時代の変化をみつめます。
岩永悦子（当館学芸課長）
場所：福岡アジア美術館 あじびホール
定員：50名

12月9日（土）15:00〜16:00
耳庵・松永安左エ門の美術品収集
「最後の大茶人」とも謳われる松永安左エ門（号：耳庵）の足跡を、美術品収集にまつわる逸話を軸に辿ります。
後藤恒（当館学芸員）
場所：福岡市博物館 多目的研修室
定員：30名

所蔵品紹介

上田薫《アイスクリーム B》

1974年｜アクリル・画布｜227.5×182.0cm

キャンバスの高さは2メートルを超えます。この明快な作品の前で、解説は不要と思われるかもしれません。でも、法外に大きく人を喰ったアイスクリームだと言えば、笑って許して頂けるでしょうか。では作者の経歴に沿って、作品の前後を顧みてみましょう。

1970年に描かれた《貝》と《貝殻》を契機とし、上田薫は10年にわたるデザインの仕事から再び絵画の世界へと舵を切りました。以来、靴や煙草の吸い殻といった日常的なモティーフを描く中で、関心は「物」から「現象」へと移ります。《アイスクリームB》は、したたるアイスクリームというモティーフの動きを捉えたことで、画面に「時間」が生まれた最初の作品であると、最近のアーティスト・トーク！で彼は語りました。本作以降、殻から落ちる生卵や揺れ動く水面など、スーパーリアリズムの旗手としての上田の名を不動のものとする代表作が次々と誕生し、時間を内包する多様な表現が展開します。

上田薫といえば、全国的には東京都現代美術館などが所蔵する「生玉子」のシリーズが有名ですが、流動するモティーフという発想の原点である「アイスクリーム」と、画家の自画像でもある「スプーン」が同時に見られるのはここ、福岡市美術館だけ。どうぞ、自慢して下さい。

（吉田暁子）

1「コレクション展3 反映の宇宙」（神奈川県立近代美術館 葉山、2016年1月28日〜3月26日）関連企画、3月11日。

〈ふくおか応援寄付〉

福岡市へのふるさと納税（ふくおか応援寄付）は巻頭でもお伝えしたとおり，福岡市美術館コレクションの充実に役立てられています。ふるさと納税では、一定の上限のもと、寄付額から2,000円を差し引いた額について、所得税や住民税から控除されます。平成28年度（平成29年3月末まで）は当館に対し、9名の方から計9,113,000円のご寄付をいただきました。本当にありがとうございます。いただいた寄付金は，今号で紹介した作品購入に活用いたしました。平成29年度も募集が開始されています。当館に5,000円以上ご寄付いただいた方には，記録集『福岡市美術館 クロージング／リニューアルプロジェクト2016 について語る。』を贈呈いたします。みなさまからの応援をお待ちしています！

問合せ：リニューアル事業課　Tel 092-714-6051

ふくおか応援寄付　検索

［編集後記］

○新たなコレクションを迎えることで、美術館全体に静かな喜びが広がっているのを感じました。単純に約1万6000点のコレクションに＋14となっただけではない、家族や親戚や仲間が増えたような感覚。いつか展示室に並ぶ日がたのしみです。（西日本新聞社・笠井）　○「アートとお金」。知りたくて、でもちょっと無粋な気もするテーマです。ところが取材を進めると、興味を惹かれるトピックがどんどん飛び出しました。美術館が作品を買うこと、寄贈を受けること、そして個人がアートを買うこと。どこにもいわば情熱のようなものがくっついてきて、切実な行為なんです。（nico edit　浅野佳子）

親子向け企画

ファミリーDAY

11月3日の開館記念日を含めた3日間に毎年実施してきた親子向けの企画「ファミリー DAY」。展示室で作品を見ながら物語を作ったり、アーティストとワークショップをしたり…ふらっとやってきて美術と美術館を気軽に楽しめると、多くの方々にご参加いただいてきました。が、今年は休館。そこで、いつもとちょっと趣向を変え、じっくり物作りを楽しんでもらうプログラムを、市の児童会館で行います！今回は募集制です。締切がありますので、どうぞお見逃しなく！

［日時・内容］11月4日（土）
①10:30〜12:00「掛け軸をつくろう！」
②13:30〜15:00「キミも現代アーティスト！？身近なもので作品をつくろう！」
［対象］小学生とその保護者
［定員］各回20名
［場所］福岡市立中央児童会館 あいくる 集会室1
福岡市中央区今泉1-19-22 天神CLASS 7階
［応募方法］ご参加の方全員のお名前、年齢、ご住所、お電話番号、メールアドレス、希望のプログラム（①か②）をお書きの上、メールか往復はがきにて下記宛先までご応募ください。［10月16日（月）必着］
［お問い合わせ・宛先］
福岡市美術館「ファミリー DAY係」　電話 092-714-6054
〒810-0043 福岡市中央区城内2-5
メールアドレス workshop@fukuoka-art-museum.jp

福岡市美術館リニューアルプロジェクト

絵本作家・荒井良二さんと壁に絵を描こう

リニューアル工事中の福岡市美術館仮囲いをキャンバスに
絵本作家・荒井良二氏と一緒に壁画を描きます。

［日時］11月3日（金・祝）10:30-16:00
［場所］福岡市美術館仮囲い前（雨天時は福岡市美術館搬入口を使用）
［定員］30名（応募多数の場合は抽選）
※申込方法など詳細は福岡市美術館ホームページをご覧ください。

作品はどこへ？

福岡市美術館の所蔵品が下記の展覧会、美術館・博物館でご覧になれます。

「夢の美術館―めぐりあう名画たち―」

福岡市美術館、北九州市立美術館収蔵の名品展。いよいよ最終会場です。一緒に旅を続けてきた北九州市立美術館は2017年11月に当館より一足お先にリニューアルオープンします。
◎島根県立美術館／ 9月12日（火）〜10月23日（月）

九州国立博物館「新・桃山展」の仲間たち

九州国立博物館の文化交流展室では、同館の特別展「新・桃山展－大航海時代の日本美術」（10月14日〜11月26日）にあわせて「〈新・桃山展〉の仲間たち」が開催されます。《泰西風俗図屏風》（9月26日〜11月5日）や《豊干禅師・寒山拾得図》（11月3日〜12月23日）を含む13点の当館所蔵品が展示されます（会期中展示替えあり）。
○第1弾：9月16日（土）〜10月29日（日）「室町・安土桃山時代編 part 1」
○第2弾：9月26日（火）〜11月5日（日）「安土桃山・江戸時代編」
○第3弾：11月3日（金）〜12月23日（土）「室町・安土桃山時代編 part 2」

福岡市博物館「市美×市博黒田資料名品展」

福岡市美術館・福岡市博物館の黒田資料をあわせて紹介するシリーズ。今回のテーマは「黒田家の女性」です！
●「市美×市博黒田資料名品展Ⅲ　黒田家の婚礼」
8月22日（火）〜10月22日（日）企画展示室1
黒田資料に残る婚礼調度と道具帳、婚礼記録を併せて展示し、黒田家の婚礼の威容を紹介します。
●「市美×市博黒田資料名品展Ⅳ　藩主夫人が愛した文物」
8月29日（火）〜11月5日（日）企画展示室2
黒田家の重宝類の由緒を記した様々な記録と現存する藩主夫人の遺愛品を照合し、その伝来過程を明らかにします。

福岡アジア美術館

アジアギャラリーにて、当館所蔵のアニッシュ・カプーア《虚ろなる母》、ザオ・ウーキー《僕らはまだ二人だ－10.3.74》などを順次展示しています。

福岡市美術館 季刊誌　エスプラナード 189号　［発行日］2017年10月1日　［制作］福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社（西日本新聞社）　［編集］浅野佳子（nico edit）　［デザイン］尾中俊介（Caldmari Inc.）　［印刷］株式会社西日本新聞印刷　［発行］福岡市美術館｜〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6｜Tel 092-714-6051｜Fax 092-714-6145｜http://www.fukuoka-art-museum.jp/

ESPLANADE 189

福岡市美術館 季刊誌　エスプラナード　189号　October, 2017

ニューフェイスがやってきた！

今年、福岡市美術館のコレクションに14点の作品が仲間入りします。知っているようで知らない、美術館が作品を手に入れる方法について、コレクションの成り立ちについて、この機会にご紹介しましょう。

美術館が新しい作品を入手する２つの方法。

今回新たにコレクションに入る14点の作品のうち、
購入したものが7点、寄贈されたものが7点。
そもそも「購入」とは、「寄贈」とは
どんなことをいうのでしょうか？

美術館が新しい作品を入手する２つの方法。

① 「何を購入するか？」で美術館の方針が見えてきます。

福岡市美術館 山口洋三学芸員に聞く

――どの作品を購入するかは、どう決まるのですか？

美術館には、それぞれの作品の収集方針があります。例えば、福岡市美術館はこのようなもの。
①近代の西日本出身者や関係の深い作家の絵画・彫刻・工芸作品　②近現代美術の流れを展望できる内外の優れた作品　③西日本に関係の深い近世以前の作品　④寄贈された一括コレクションに深い関わりがある作品　⑤アジア美術の独自性を示す、古代から近世までの優れた作品というものです。福岡市美術館の第一号購入作品はラファエル・コランの《海辺にて》。九州出身である黒田清輝らとの関わりが深く、①の観点から購入が決定。その後②の観点から、ジョアン・ミロやサルバドール・ダリ、草間彌生などを購入。また福岡にあるべき作品として、①の観点から菊畑茂久馬ら九州派の作品を購入するなどしてきました。

――今回の作品購入が決まるまでを教えてください。

今回の購入は、実は「ふくおか応援寄付」の寄付金のたまものです。今回購入した作品は、どれも長年にわたり収集を希望していたものばかりで、篤志家の方々にふくおか応援寄付」にご関心を寄せていただけたことは本当にありがたいと思っています。購入に当たってのおおまかな流れは次の通りです。

【購入・寄贈までの流れ】
1. 学芸課内で、近現代美術・古美術の部門ごとに購入候補作品を選び出す。作品の選定に当たっては、美術館のこれまでの展覧会活動、収集活動、それを支える各学芸員の研究活動や人脈を通じて得られた様々な情報が駆使される。
2. 予算の総額を念頭に置きながら、真摯は無論のこと、価格の妥当性、当館の収集方針に照らしての必要性、所蔵家や他館に流れてしまわないかなどの緊急性、作品の保存状態などを慎重に検討し、収集候補作品をリストアップ。
3. 福岡市教育長より「収集審査員」に任命された学識経験者（3〜5名）を当館に招へいし、「収集審査」を開催。学芸課で作成した関係資料を元に、原則として作品実物を実見しながら、収集の妥当性、価格の正当性などについて、収集審査員が厳正な審査を行う。寄贈作品についても、受贈の可否を収集審査員が審査する。
4. 収集審査を通過した作品は、購入・寄贈の手続きに入り、正式な美術館所蔵品となる。

美術館全体で、今後コレクションで充実させていく優先順位を話し合い、関係各所に確認をしながら購入をすすめるわけです。
今回、②の観点から作品を購入した手塚愛子さん、山本高之さん、上田薫さんは、現在活躍している現役の作家です。過去に福岡市美術館で展示に出品していただいたことがあり、現代アートを見せる文脈にふさわしいと購入が決まりました。また④と⑤の観点から、カンボジアの陶器やタイの土器、インドネシアの更紗なども、今回の購入品目に入っています。

――美術館が作品を買う意味とは？

コレクションの充実を図るというのが大きな目的ですが、例えば地元の作家のものを購入する場合、地元の美術館だからこそ正しい評価ができ、また市場がない中で「美術館が買う」ということで作家の評価にインパクトを与えられます。一方、国内外の有名な作品を購入する場合は、美術館の活動方針を対外的に示すことにもなります。また、過去に展覧会を行った作家であることはひとつの理想形です。美術館との親和性があるということですから。もちろん、展示した作家に限らず、常に情報収集に努めることも大切です。

――美術作品の値段というのは、なかなか想像がつきにくいです。

もちろん作家や作品の市場評価は、タイミングによって変わります。例えば先日ZOZOTOWNを運営するスタートトゥデイの代表取締役社長・前澤友作さんが、米国の画家、ジャン＝ミシェル・バスキア（1960-1988）の作品を約123億円で落札したことがニュースになりました。福岡市美術館が1992年にバスキアの作品を買った時、その価格は2600万円。美術館は価格が上がることを目的に購入するわけではありませんが、いまこの瞬間だけでなく、例えば「30年後にこんな美術館になっていたい」という想像力が大切です。
さて、今回購入した作品群は、リニューアル後の美術館で見ていただくことになります。新しい作品が入ると、従来の作品まで、これまでにない視点で見えてくることが、よく起こります。今回もどのように来館者のみなさんに見ていただけるか、いまからワクワクしています。

② 「寄贈」が作品の幅をひろげ、層を厚くする。

福岡市美術館 後藤恒学芸員に聞く

――作品を収集するもうひとつの方法となる「寄贈」とはどういうものでしょうか？

まず、作家やコレクター、その家族から作品をくださるというお申し出があります。それに対して、なんでも闇雲にというわけではなく、美術館の収集方針のもとに、展示活用の機会が見込まれるものや、将来的なコレクションの見通しが立つものを選ばせていただきます。収集審査に諮る等のプロセスは「購入」の場合と同様です。
当館が展覧会に所蔵作品を紹介したことをきっかけに寄贈いただくことも少なくなく、当館の活動を評価、信頼していただけたという喜びは言葉に尽くし難いです。また、作品の継続的な保管に不安がある場合、自分のコレクションを広く鑑賞してほしいと寄贈してくださることもあります。

――寄贈の点数はどのくらい？

実は、福岡市美術館の約1万6000点の収蔵作品のうち、7割は寄贈によるもので、古美術部門だけでいえば、さらに寄贈の割合が高くなっています。いまでも年間平均100点ほどは、寄贈によって作品が増えています。
1点ずつの寄贈もありますが、まとまった数の寄贈が、開館以来17回ありました。これを一括寄贈コレクションと呼んでいて、例えば、重要文化財の仏像が多く揃った「東光院仏教美術資料」や、国内屈指の茶道具が集まった「松永コレクション」などがあります。

――美術館にとって「寄贈」とはどんな意味をもっているのでしょうか？

コレクションの幅をひろげ、層を厚くする、願ってもない機会です。作品が増えることで、新しい企画も生まれます。

購入作品
上田薫
《スプーンの自画像A》

次頁に作品解説

新収蔵品について、それぞれの作品の収集に携わった学芸員がご紹介します。

2014年に開催した「想像しなおし」は、6名の若手アーティストの新作インスタレーションを中心に構成した展覧会でした。今回、出品作家のうち2名の作品を収蔵することができました。収集にあたっては、同展への出品有無にかかわらず、作家の活動において重要であると考えられる作品を選んでいます。
当館において、同時代の美術あるいは若手アーティストの作品の収集は、決して十分なものではありませんでした。今回の収蔵を機に、今後も継続して若手作家の作品を紹介する機会を、収蔵活動と展覧会を通じて、つくっていきたいと思います。

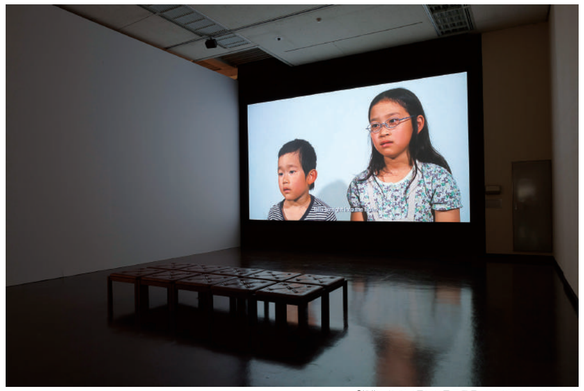
撮影：福永一夫

購入作品 手塚愛子《縦糸を引き抜く－五色》

2004年｜引き抜いた縦糸、既成布・パネル｜180×420cm

手塚愛子さんは、2000年代から日本で注目を集め、現在ではドイツ・ベルリンを拠点に活動しています。彼女の作品の特徴は、既製の織物の糸を解くことにあり、本作は手塚作品のプロトタイプと呼べる初期のものです。
落ち着いた色調のゴブラン織の布が張られた6枚の円形パネルが並んでいます。パネルの輪郭をなぞるように鮮やかな5色の糸が弧を描きながら落ち、そして束ねられています。
糸を引き抜く独自の手法によって顕れる鮮烈なコントラストは、一瞬たじろいでしまう程です。作品に歩み寄ると、糸を引き抜いたことで周囲の布はわずかに引きつり、垂れる糸の奥にはその色を失った世界が見え隠れします。そしてこの織物が5色に白を加えた6色の糸のみで織られていることにも気づくでしょう。
織物を解くことで露わになる世界の多層性。元々絵画を専攻していた手塚さんにとって、織物は絵画の歴史と構造を考察するためにも必要な媒体（メディア）でした。けれどそれだけではなく本作は、この世界に起こる様々な事柄についても想像を促し、語りはじめます。

（正路佐知子）



「想像しなおし」展での展示風景　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

購入作品 山本高之《Facing the Unknown》

2012年｜ビデオ・インスタレーション（13分59秒）

ブラックホールについて専門家が説明し、それを姉弟が聞いています。言葉とジェスチャーだけで、見たことがないものをわかりやすく説明しなければならない大人と、大人を気遣いながら一生懸命理解しようする、あるいは全く理解できないまま上の空の子ども。
子どもならではの想像力？好奇心？わたしたちは無邪気にそれらを期待してしまうものですが、人はみな生きてきたなかで得た知識、そこから可能となる想像をつなぎあわせて物事を理解し、状況を読み、行動しているに過ぎません。教員経験を持つ山本高之さんはこれまでワークショップをおこなうなど子どもたちとともに作品を制作してきましたが、そのなかで彼らは等しく社会的な存在として登場します。
本映像作品では、人物の表情や仕草、声の調子がクローズアップされ、それぞれが与えられた役割を全うしようとする愛すべき姿が、そして（未）知とであう美しい瞬間が捉えられています。「現代アート、特に映像作品は苦手」なんて人も、あっという間に14分間が過ぎていくことでしょう。

（正路佐知子）

購入作品 上田薫《スプーンの自画像A》

1990年｜油彩、アクリル・画布｜141.0×31.7cm

《スプーンの自画像A》を最初に見たのは2015年7月、上田薫さんのアトリエでした。「物・語－近代日本の静物画－」展へのご出品をお願いしたく、企画説明を兼ねて伺った折のことです。事前にお願いした作品の調査を終えリストを拝見していたとき、この作品の写真に気づきました。モティーフの形なりのキャンバスからは、作品と外部を隔てないという彼の絵画観がまっすぐ伝わってきます。ぜひにとお願いすると手ずから包みを解かれ、子供の背丈ほどのスプーンが現れました。潔くも懐かしい造形に、壁に掛かった姿が目に浮かぶようで私は興奮しました。「自画像」という題名は珍しいものです。泡の表面に映る自らの顔を描きこんだ《あわ－K》（1981年、水戸市蔵）という作品に、自画像として出品依頼が来たこと[1]が発想につながったと、上田さんは軽やかに仰います。ふと、周囲を透明に映し出すモティーフは、彼の精神の似姿なのか、描いているうちに心が似てくるのかと気になりました。このような問いが浮かぶこと自体、画家の術中にはまった証拠なのでしょうか。

（吉田暁子）

1「現代のセルフポートレート」展（埼玉県立近代美術館、1985年）

2016年度寄贈作品　朝倉摂《日本1958》1958年｜紙本着色、六曲一隻｜168.0×368.9cm

寄贈作品 朝倉摂《日本1958》とその下絵、関連素描

本作を目の前にしたとき、迫力ある描写に圧倒されました。建ち並ぶ鉄塔を背に、狐の面を被る人物が中央右に立ち、寝そべる男、手を合わせる子ども、母子、赤い犬らが囲んでいます。混乱と復興の時代を強かに生きる者たちの群像劇、あるいは狐の面を被る人物についての作者の言葉から、人が人をばかすことが当たり前になっている現代生活における「真実のある人間」の姿をここに読むことも可能でしょう。
昨年度、彫刻家・朝倉文夫門下および娘たちの作品を受贈したなかに本作、朝倉摂（1922-2014）の六曲一隻屏風が含まれていました。文夫の長女である摂は、日本画家・伊東深水に師事し1940年代より作品を発表。気鋭の日本画家として、加えて絵本の挿絵画家としても高い評価を得ます。1970年には舞台美術を学ぶため渡米。帰国後は舞台の仕事を中心に活動したので舞台美術家として有名ですが、近年日本画家としての摂の活動にも注目が集まっています。
本作品調査の過程で、ご遺族とアトリエを守っておられるみなさまより貴重なお話を伺い、今年、下絵や関連素描を寄贈いただくことになりました。モティーフの解明や、同年竣工した東京タワーを描く《日本1958-2》（山口県立美術館蔵）との関係など、これから明らかにしていければと思います。

（正路佐知子）

2017年度寄贈作品　《日本1958》下絵｜墨、コンテ・紙｜33.2×72.7cm

購入作品 《黒褐釉櫛目文大壺》

カンボジアまたはタイ｜12〜13世紀｜陶器、壺

《黒褐釉櫛目文大壺》は、世界遺産アンコール・ワットで有名なアンコール王朝の最盛期（12〜13世紀）に製作された壺で、高さ約60cmは同形遺物の中でも大ぶりで、出来映え・保存状態も極めて良好。《無釉擂座三脚壺》は同じインドシナ半島に存在した謎多き仏教国家ドヴァーラヴァティー王国の土器（7〜9世紀）で、これも状態良好で、かつ遺存例の殆ど知られていない極めて稀少な一品。どちらも当館が国内外に誇る東南アジア古陶磁コレクションの空白部分を埋める重要な作品です。2点の所有者から数年前に購入オファーを受けた時は色めき立ちましたが、なにしろ先立つ物がないため見送らざるを得ず。そしてこのたび「ふくおか応援寄付」によって到来したチャンス。「さすがにもう売れてしまっただろうナ」とダメ元の思いでお電話すると「まだ持っていますよ！」。後述の《紫地小花文様更紗》、《花束文様更紗腰衣》とともに念願の購入と相成り、それらがリニューアル後の美術館活動における様々な舞台で躍動する様を想像して、今から武者震いしています。

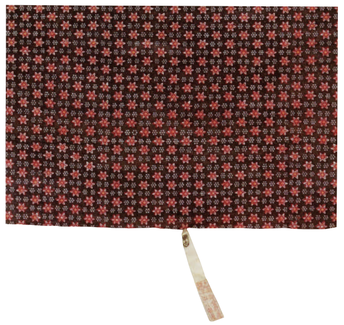
（後藤恒）

購入作品 《無釉擂座三脚壺》

タイ｜7〜9世紀｜土器、壺

購入作品 《紫地小花文様更紗》

ヨーロッパ｜19世紀｜木綿・捺染、反物



《紫地小花文様更紗》は、「更紗の時代」展（2014年）の調査で出会いました。インド更紗をヨーロッパで模倣してアジア向けの商品として輸出したものが、おそらく文政年間に長崎経由で入ってきたもの。インド更紗の直系の子孫としての文様の美もさることながら、お店の値札がついているのが非常に貴重で、当時の大坂の有名店の商品であることと、値段も判明します。また、状態良好で、はさみを一度も入れていない、完品。伊達男が地味な上着の内側に着て、チラ見せした「間着」と呼ばれる着物に使われたのでしょう。江戸時代、呉服屋は今よりずっとインターナショナルな商品を扱っていた、というわけです。所蔵していた古美術商に作品購入の打診をしたら、「あれ、海外のお客様が予約をされて…」「ええー！？」。それを聞きつけた先約のお客様は、当館に譲ってくださいました。おかげで本作品はインド更紗の子孫として、当館の500年にわたる更紗コレクションの流れの大事な結び目となりました。
《花束文様更紗腰衣》は19世紀後半から20世紀初頭に製作された、インドネシアのバティックです。今回はじめて、教育普及用の持ち出し作品としての、ホンモノのバティックを購入することができました。展覧会で展示するレベルの名品です。直に触れていただけます。

（岩永悦子）

購入作品 《花束文様更紗腰衣》

インドネシア｜20世紀前半｜木綿、筒型腰衣

Column ①

アートを買うことは自分を買うことなんです

アートフェアアジア福岡2017実行委員長 森田俊一郎さんに聞く

あなたはアートを購入したことがありますか？日本では、アートは「美術館で見るもの」ですが、世界では「買うもの」。アートを買うきっかけのひとつがアートフェアです。福岡のアートフェアも今年で3回目になります。
アートを買うためには、「この作品を自分のものにしたい！」という、獲物を狙う動物のような強いエモーションを自分で作り上げる必要があるでしょう。この高揚感は言葉では言い表せません。アートの仕事に携わるなかで「部屋にアートを置くようになって、インテリア雑貨では物足りなくなった」「日頃の人間関係まで変わった」なんて声をたくさん耳にしてきました。アートを購入したことが人生のターニングポイントになっているのです。
はたしてアートはお金持ちだけのものでしょうか？答えはNOです。アートフェアでは、同時代の作家の作品を1万円代からでも見つけることができます。どんな作品を買えばよいか分からない？自分が一緒に暮らしたいと直感する、ときめきを感じる作品を探せばよいのです。さらに直感力を高めることを楽しんでください。
「アートを買う」ことで、あなたの世界が一変する。その醍醐味をぜひ実感していただきたいですね。

＊「ART FAIR ASIA FUKUOKA2017（アートフェアアジア福岡2017）」は、2015年より福岡市内で開催されているアートフェアです。3回目の開催となる今回は、国内外から37のアートギャラリーが参加し、ホテルオークラ福岡の客室37ルームに作品が展示されました。また、今年のフェアでは関連イベント「学芸員が語る 現代アート入門」にて山口洋三学芸員がトークを行いました。

Column ②

「アートとお金」のことをもっと知りたくなったら

映画　DVD

ハーブ＆ドロシー　アートの森の小さな巨人

［監督］佐々木芽生　［発売年］2012年　レンタル商品

ハーブとドロシーの仲良し夫婦の楽しみは、現代アートをコレクションすること。選ぶ基準は「自分たちの給料で買える値段」で「1LDKのアパートにおさまるサイズ」であること。30年におよぶ幸せなコレクションの行く末を追ったドキュメンタリー。

映画　DVD

メットガラ　ドレスをまとった美術館

［監督］アンドリュー・ロッシ
［発売元］ニューセレクト　［販売元］アルバトロス　［発売年］2017年
©2016 MB Productions, LLC

NYメトロポリタン美術館が、年に1回豪華な衣装に身を包んだセレブリティを招待するのは、「美術館運営の寄付を募るため」。一夜で数十億円の寄付を集めるファッション・イベント『メットガラ』を作り上げる、プロフェッショナル達の仕事ぶりに圧倒される一作。

本

現代アートを買おう！

［著者］宮津大輔　［発行］集英社　［発行年］2010年

普通のサラリーマンが、なぜ日本を代表する現代アートコレクターになったのか？　コレクションのきっかけから、作品の選び方、作家とのコミュニケーション術、購入方法までノウハウを惜しみなく伝える。これからアートを買いたい人の背中を押す一冊。

本

デトロイト美術館の奇跡

［著者］原田マハ　［発行］新潮社　［発行年］2016年

市の財政難から存続の危機に立たされたデトロイト美術館。はたして美術館を救う方法はあるのか？ 美術館を愛する市民、主要なコレクションを寄贈した裕福な男、作品の散逸を避けたいと奔走するキュレーターの視点から描かれる、本当にあった物語。